



たんぽぽ

第2号 令和2年9月

社会福祉法人 岩手愛児会
たんぽぽ病児保育所
〒020-0102
盛岡市上田字松屋敷11-14
Tel 019-662-5619
携帯 070-1736-3793
E-mail tanpopo@aiji.or.jp



ラインでの予約可能です。
まずは登録を。
24時間何時でもOK。
(携帯は7:30~18:00対応)

ウイルスと細菌と真菌の違い 人への感染は治療はどのように？



- ウイルス→人の細胞の中に侵入(寄生)し増殖する。開発段階のものが多く抗ウイルス薬による治療と症状に合った対症療法がほとんど。予防接種できる病気は抗ウイルス薬ワクチンで予防に努める。
(たとえば、おたふく風邪や水疱瘡は2回予防接種を受けると防ぐことができる)
※ウイルス性の夏風邪などには抗菌薬は効果を発揮しないとされています。
- 細菌→体内で定着し細胞分裂を繰り返して増殖しながら毒素を出して細胞を傷害する。細菌の種類により様々なタイプの合成抗菌薬があり、細菌細胞に作用し増殖を抑制する有効な薬です。
(たとえば、感染性胃腸炎、大腸菌、気管支炎、肺炎、中耳炎、溶連菌などの治療に有効)
- 真菌→人の細胞に定着し、菌糸が出芽や分裂し成長と分枝(枝分かれ)によって発育していく。治療には真菌の細胞膜を破壊したり、細胞膜の合成を阻害する抗真菌薬があります。
(白癬菌いわゆる水虫、カンジダによるお尻ただれ、アスペルギルス症などの治療に有効)

※元気で健康な状態であれば罹りにくく、抵抗力が弱ったときに感染してしまふことがあります。普段から健康第一で食事・睡眠・休息をとって疲れないことを心がけて生活しましょう。もちろん、思いっきり笑って楽しむ事も心の健康も大切ですので適度に遊びましょう。

※ウイルスか細菌か真菌かの違いは、医師の診察と検査が必要で症状に適した治療が早く治すことになります。一度の診察で貰った治療薬で様子を見ても止めてしまうことで再発したり、薬が合わず悪化したりします。
抗菌薬の治療で良くなり悪化するときは、医師に相談診察をしてもらいましょう。

※赤ちゃんのお尻ただれ、軟膏を塗っても良ならないときは、カンジダ(真菌)の恐れがあります。抗ウイルス薬が必要になるので広がる前にかかりつけ医の診察を受けましょう。

秋の虫刺されに注意しましょう。生き残るためにしぶとくなっています。蚊やブユは血を吸うので刺されると痒みが出ます。掻き傷からの細菌感染を起こさないように、刺されたら清潔にして絆創膏で患部を覆うと痒みが和らぎ掻き傷の防止効果にもなります。屋外や草原野原へお出かけの際は**予防に虫除けスプレーを使うことをオススメ**します。肌の露出をしないのも予防対策です。
虫刺されの治療法は皮膚の症状を抑えることを目的に主にステロイド外用薬が用いられます。腫れや痒み、炎症、痛みが強い場合は病院に行き診察を受けて治療しましょう。

大人にも・・・とびひ、うつるの？

・虫刺されなど掻き傷からプツプツ水疱がでたら大人は皮膚科へ。子どもは小児科へ。

「うつります。」かさぶたタイプの溶連菌連鎖球菌(溶連菌)のとびひが多く、子どもより大人に多く見られます。夏だけでなく季節に関係なく発症します。熱いかさぶた、紅い斑点、米粒大の膿、発熱、喉の痛みなどを伴うとびひです。大人は、疲れが溜まっていて易疲労、免疫力が低下すると移りやすくなります。自然治癒を待っていると長期間を要するので皮膚科を受診しましょう。とびひが体中に広がる前に細菌に適した治療薬を用いて早くケアしましょう。治療(内服・軟膏)で症状の改善が見られるのは平均5~7日ほどです。治療が遅れて「ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群」を発症する場合があります。これは、猛烈な痛みを伴いブドウ球菌の毒素が血液中に入り発症します。触っただけで皮膚が剥がれるので多くは入院しての治療を要します。発熱(高熱)がありますので注意して下さい。



お風呂に入っても大丈夫？
→シャワー浴を行い良く泡立てた石鹸で優しく洗い流しましょう。熱いと痒みを誘発するのでぬるめのシャワー浴にしましょう。



お洗濯はどうすれば？
→いつも通りで他の物と同時に洗っても大丈夫です。



仕事や買い物外出は？
→じゅくじゅく液が出る患部をガーゼ等で覆ってから出かけましょう。患部のつゆが細菌を持っているのでこのつゆが周りの皮膚に触れないようにしましょう。皮膚に触れてしまうと新たな水疱膿痂疹ができます。



ママが気を付けること
→ママや家族がとびひになった場合は、すぐに受診すること。治療を始めること。赤ちゃんの授乳やお世話の中、触っても大丈夫なように皮膚を覆いましょう。小まめに手洗いを忘れずに。



爪を短めにしましょう。
→無意識に痒くて掻いている可能性があり、その手で菌を広げてしまいます。患部を覆い、しっかり完治するまで薬を使用しましょう。



市販薬でも大丈夫か？
→初期症状の場合は、市販薬でも有効な場合もありますが、薬剤師に症状をお話して選んでもらいましょう。症状が進行している場合は早めに受診しましょう。

治療を開始すれば数日で症状が落ち着きますが勝手な判断で処方薬を止めると完治せずに長引く場合があります。医師と相談しながら「大丈夫。完治しましたよ。」といわれるまで指示に従って治療をしましょう。